



ごあいさつ

Message

本日はご来場いただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、英語歌舞伎「弘知法印御伝記」を御披露する試みです。この英語歌舞伎が早稲田大学で上演されるまでには、いささかの物語があります。ごあいさつに代えて、それをご紹介します。

「弘知法印御伝記」は、貞享元年(1685)に江戸孫四郎によって初演されたことが、正本によってわかる作品です。江戸孫四郎は長閑野の大夫でした。世界唯一の伝本がロンドンの大英博物館図書室(現在は大英図書館に改組)に所蔵されていました。1962年にケンブリッジ大学で教鞭をとるために渡英した早稲田大学講師の鳥越文藏(元演劇博物館館長、のち早稲田大学名誉教授)が伝本を確認し、古典文庫 224『古浄瑠璃集[大英博物館本]』(1966年)において、チャールズ・ダンとの共著の形で書籍紹介しました。

鳥越文藏に渡英を勧めたのは、早稲田からの友人だった日本文学研究者のドナルド・キーンでした。この当時、欧米までの学者の渡航は貨物船に賃借する形での船便が通例で、鳥越文藏もその例に漏れませんでした。長い船旅での楽しみは甲板での卓球だったが、たった一つの球が海に落ちてしまって、卓球もできなくなってしまったと、うかがったことがあります。明治の留学生と変わらぬような船旅の末にリバプールから、ロンドンに至ります。ロンドンに到着した翌日、旧知のロンドン大学教授チャールズ・ダンの案内でロンドン市内をドライブ中に、「大英博物館に得体の知れない本があるのだが、見てもらえないだろうか」という打診を内々受けたとのこと。この記念すべき日は、「たしか映画007の封切りの初日で、ラッセルスプエアーの映画館の前はすごい賑わいだった」という鳥越の記憶によって、1962年10月5日とわかります。

それから間もなく出かけた大英博物館図書室で、鳥越文藏は日本国内での伝存のない「弘知法印御伝記」という浄瑠璃正本に遭遇することになったのです。ですから、発見したというよりは、そこにあった本に呼び寄せられたという方が正しいでしょう。表紙の表題は「A Chinese Story Book」と書き込みがあって、中国の物語とされていた本の、正しい素性が突き止められたわけですが、オランダ商館付きのドイツ人医師ケンペル(エンゲルベルト・ケムプファー)が、1692年に日本から持ち出したものでした。主人である弘知法印は、新潟の長岡市の西生寺に即身仏として安置されていることで知られています。ぜひこれを書籍紹介したいので、写真撮影を依頼したのは、その当日だったといえます。

やがて、写真ができたので引き取りにくるようという連絡がきて、ケンブリッジから2時間かけて大英博物館までやってきた鳥越は、あらためて、これはどれくらい貴重な文献なのか? という質問を受けます。当時の日本では、貴重なものは内部の者が保管してからでなければ部外者の発表は許さない、といったことも珍しくありませんでした。そうした事例が数多くあつたながらも、世界中でここだけにしかない孤本であるということを伝えながら、ぜひ紹介させてほしいと一生懸命に説いた鳥越に、大英博物館は想像もつかなかった答えを返します。曰く、「それほど貴重なものなら撮影費も要らない。自由に撮影、発表してもらって構わない。ただ一つ、大英博物館所蔵であるということだけは明記してほしい。条件はそれだけです。」

資料とは公開すべきもの。後に演劇博物館で鳥越文藏館長が実践した大々的な資料公開を導く、大きなカルチャーショックが、この大英博物館での体験だったのです。

ちなみに今日では、この「弘知法印御伝記」正本は、国書データベース(<https://kokusho.nijl.ac.jp/>)を通して、全丁のカラー写真と、いつでも、どこでも、見ることができます。

鳥越文藏について

文楽三味線として活躍して、た巻澤浅造が、体調を崩して文楽座を退座、郷里の新潟県に戻ったのは1997年でした。演劇関係である実家で、総務や経理の仕事に従事しながらも、芸能への情熱は絶えることはありませんでした。古浄瑠璃に思いを馳せた浅造は、どのように道を拓いていけばよいか、壁に突き当たった思いから2006年、藁にもすがるように初演のボカレチーキーに助けを求めました。程なくキーンが提案したのが、越後国柏崎を舞台とする「弘知法印御伝記」の復活上演でした。2007年正月のことです。鳥越文藏の教え子である西橋健(元文楽の人形遣い・吉田簀司)が率いる佐渡島で文楽人形師の越後屋八重と、何か新しい作品に取り組みたいと考えていた浅造が、鳥越文藏のところへ復活上演の立案を求めたところ、「キミ、本当にやってくれるのか」と、鳥越は目を輝かせて驚きの声をあげたといえます。

浅造は、あらためて越後屋八重という芸名を名乗って、この「弘知法印御伝記」の復曲に挑むこととなりました。とはいえ、

『古浄瑠璃集 [大英博物館本]』に翻刻された浄瑠璃本文は、平仮名の多い、漢字もあてられていない古浄瑠璃の原文です。例えば「大かめ」とあるのが、「大亀」なのか「狼」なのか、判断に迷うようなところから始まって、西橋と浅造は読解を続けていきました。

人形による初めての復活上演は2009年に柏崎で行われました。その後、2010年に東京でも公演が持たれ、この様子は「幻の古浄瑠璃 東京見参」というテレビドキュメンタリーにもなりました。この間に、ドナルド・キーンと浅造は意気投合、浅造はキーンの近くで日常生活を助け、秘書業務をこなすことになります。2012年3月の東日本大震災を機に、ドナルド・キーンは日本国籍を取得、同じ月に浅造(本名は上原誠己)をキーン誠己として養子に迎えることとなります。ドナルド・キーンはさらに、「弘知法印御伝記」英国里帰り公演を薦め、ついに2017年6月、大英図書館内のホールにおいて、凱旋公演として人形付きの上演が実現されたのでした。英国公演にドナルド・キーンとともに立ち会った鳥越文蔵が浄瑠璃本の素性を突き止めてから、55年目でした。

もうひとつ話変わって、

ドナルド・キーンは、長らく一年の5ヶ月ほどをニューヨークで、残る7ヶ月を日本で過ごすという生活を送っていました。ニューヨークでは、コロンビア大学から徒歩3分の自宅から、ドナルド・キーンセンターのあるコロンビア大学へ出かけて講義をしていました。そこで講義を受けた多くの教え子の中に、ポートランド州立大学の名誉教授となったローレンス・コミンズがいました。ドナルド・キーンの指導によってコロンビア大学から博士学位を得たコミンズは、狂言や日本舞踊の実技をも学んでおり、自分がそれを忘れないためという目的もあって、アメリカの学生に日本の伝統演劇の実技を教えることを始めました。やがて、それは学生たちによる歌舞伎上演へと発展してゆきます。

アメリカの大学における英語歌舞伎上演では、ハワイ大学が先駆的な存在として知られるように、実はかなり長い年月の積み重ねがあります。しかし、本格的な衣裳や鬘をストックしているハワイとは異なり、ポートランドのそれは、手作りの衣裳による実験上演ともいべきものです。衣裳や鬘制作のノウハウについては、コミンズ夫人である田中寿美が驚くべき工夫を凝らしていることでも知られ、体格も頭の大きさもまるで違うアメリカの学生のために、衣裳と鬘を自前で工夫しています。

コミンズと学生たちによる近年での金字塔は、2016年の「仮名手本忠臣蔵」全段上演の敢行で、ドナルド・キーンが観劇のため訪米した様子がNHKで報道されました。その上演の様子は「Revenge of the 47 Loyal Samurai」としてYouTubeで公開されているので、どなたでもご覧になることができます。2022年には三島由紀夫の「罌賣戀曳網」部分上演を早稲田大学において実現しており、今回は、それを引き継いで、さらに規模の大きな上演に挑むことになります。

そこで題材として選んだのが、早稲田大学演劇博物館とも深い縁のある「弘知法印御伝記」というわけです。というより、上演候補演目にこの題名を挙げられては、早稲田の演博が引き受けられないわけにはいかないというべきでしょうか。およそ90分の上演時間を予定しています。

本企画は、昨年の部分抜粋上演よりも大規模な英語歌舞伎の上演として、異文化交流、異文化学習等の諸点からも注目すべきものとなることが期待されます。

出演は、ポートランド州立大学でコミンズ教授のもとで学んだ学生と、OB、OG、さらには早稲田大学からポートランド州立大学に留学して、早稲田に戻ってきた学生も含まれます。教育効果としても、この異文化体験が大きな成果を挙げていることがわかります。

アメリカ人による英語歌舞伎。それは、日本人によるブロードウェイ・ミュージカルや、シェイクスピア上演を考える姿見でもあり、また同時に、浄瑠璃や歌舞伎という表現方法の普遍性を見極める浄瑠璃の鏡になりうるかもしれません。

来年2024年は、ハワイにおいて日系人が歌舞伎上演を行ってから100周年にあたることから、ケネディ劇場での「弁天娘女男白浪」の英語上演も予定されているようです。2020年のカリフォルニア州の公式謝罪(連邦政府は1988年)で再び脚光を浴びた日系人強制収容所内でも歌舞伎は上演されており、米国における日系人の歌舞伎上演、あるいはアメリカ人による歌舞伎上演は、今後さらなる注目を集めるテーマになるものと思われます。

本日の上演が、さまざまな関心や思考への入口ともなれば、この上の喜びはありません。

どうぞ大詰まで、ごゆっくりとお楽しみください。

演劇博物館館長 児玉 竜一